

「いしかわ里山塾(穴水班)」としての地域環境を活かしたふるさと教育の推進 ～地域資源の再発見、アウトドアスポーツツーリズム・ふるさと教育の推進～

団体名●いしかわ里山塾(穴水班)／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに

能登地域は、2011年6月に世界農業遺産に認定され、「能登の里山里海」の魅力が配信されている。

「いしかわ里山塾」は、能登地域における多様な構成資産を県民共有の財産として後世に継承していくため、大学生から小学生へのふるさと教育を推進していくものであり、2022年度においても世界農業遺産活用実行委員会から本学地域連携センターへの委託事業として、昨年度に引き続き実施された。穴水町において、本学池田ゼミナールは継続的に野外教育推進・地域貢献活動を継続実施しており、本年度も穴水町の視察、調査を行い、スポーツ学科学生の視点から、同町が推進しているスポーツツーリズムの施策と連動させて、地域環境を活かしたふるさと教育の推進につなげることを目的として活動した。

活動内容

池田ゼミナールでは、地域環境を活かした野外教育、スポーツ教育を推進し、地域活性化への寄与をめざしている。本年度は9名が所属しており、いしかわ里山塾(穴水班)のメンバーとして以下の活動を実施した。〔5/22「SSTR あなみずセカンドステージ」での運営サポート、7/23「子どもアスレチック広場(長谷部まつり内)」での運営サポート、8/3～5・8/18～20・8/25「ボラ待ち櫓」再建活動、8/25「MEGA SUPであそぼう!」運営サポート、11/13「あなみず ボラ待ち櫓フォーラム」参加・運営サポート、11/15 穴水町立向洋小学校3・4年生「牡蠣棚見学」サポート、2/13いしかわ里山塾成果報告会での活動報告、2/20穴水町立向洋小学校5・6年生「出前授業」実施〕

穴水町では、本年度よりスポーツツーリズム推進委員会が設置され、同町の里山里海の地域環境を活かしたスポーツツーリズム推進への施策が実施され始めており、いしかわ里山塾(穴水班)もこれらの施策実施に際して可能な範囲で連動化を図りながら、活動を実施した。



穴水町立向洋小学校における「出前授業」でのゼミナール学生と児童たち

成果、結果の考察

学生たちは、スポーツ学科でのゼミナールでの活動特性を活かし、穴水町での様々な活動に積極的に参加しながら、加えて「いしかわ里山塾(穴水班)」としての活動を通して、同町の自然、歴史・文化等の地域資源に気づき、地域住民との交流を通して地域課題についても理解を深めることができた。

特に本年度は、ボラ待ち櫓の再建やボラ待ち櫓フォーラムなど、同町の里山里海のシンボルでもある「ボラ待ち櫓」に深く関わることができたことで、また、教育委員会主催事業での小学生の体験活動のサポート実践を通して、自分たちも地域資源を理解して上での小学生の出前授業の企画、運営に臨むことができた。このことにより地域貢献のあり方についても深く考える機会を得ることができ、地域に課題解決に向けた学びを深化することができたものと推測される。

今後の課題、展望

地域の次世代育成には、それに取り組んでいる個人や各団体だけではなく、町全体の人、団体、組織、行政が複合的に協働、推進することが重要であり、加えて、町外の様々な視点からの取り組みへの参画が望まれ、更なる町民、特に次世代を担う子どもたちへのふるさと教育の推進を期待したい。